

持続可能な地域づくりに向け前進

令和5年市議会第1回定例会は、2月21日から3月17日まで、市議会会議事堂で開かれました。議会初日に、佐々木孝弘市長が5年度の施政方針を述べました。本号ではその概要を紹介します。

市の人口動態に改善の兆し

旧3町村が合併し、市が誕生してから18年目となり、新市建設計画に基づいて策定した、第2次八幡平市総合計画後期基本の3年目となります。

市が誕生してから生まれた子どもは、18歳の成人を迎える年齢になります。この間、全国的な人口減少や少子化により、本市においても人口減少が進んできましたが、ここに至り人口動態に改善の兆しが見え始めました。令和2年の岩手県人口移動報告年報による出生数が87人と合併後最小となった後、3年は98人、同4年は93人と好転し、社会増減では、3年

の174人の減少から4年には24人の減少へと大きく改善しました。

取り組みの成果と新たな課題

旧3町村の特色を生かしたまちづくりと、市の社会基盤の造成を図ってきた中で、ハロウィンターナショナルスクール安比ジャパンの誘致や地熱発電所建設などの大きな民間投資、IT起業支援などによって、若者の流入が出てきたことなど、これまでの取り組みが成果として表れてきたものです。一方で原油価格や物価の高騰、JR東日本花輪線の赤字問題など、新たな課題も生じており、中

長期的な取り組みで成果を挙げている中でも、状況の変化にしっかり対応していかなければなりません。

市民の皆さんのニーズや時代の変化にしっかりと対応できるよう、多くの皆さんと対話を重ねてきました。その多様な声に耳を傾けて、応えていくことが行政の責任です。

市のこれまでも振り返り、今の状況をしっかりと把握し、そして未来のために何をすべきかを常に考えて、施策を確実に進めていきます。

次に、5年度の主な施策と主要事業の概要を、第2次八幡平市総合計画基本構想に掲げる基本目標に沿って説明します。

1 未来への希望にもえるまちづくり

移住定住促進

- ▼移住相談や情報提供を強化する
- ▼将来的な本市への移住につなげるためのファンづくりを推進する
- ▼4年度に導入した地域おこし協力隊インターン制度を活用し、移住を具体的に検討できるよう支援する
- ▼地域おこし協力隊（新規任用予定者含む）の活動を支援する
- ▼子育て支援
 - ▼出産・子育て応援給付金の支給金額を妊娠期10万円、出産後50万円とし、妊娠から出産までの継続的な相談支援と育児費用に係る経済的支援を一体的に実施
 - ▼保育所副食費の助成や保育料の軽減を継続する

2 ともに学び働き、暮らし豊かなまちづくり

農業分野

- ▼県の奨励品種「銀河のしずく」など品種の適正配置による、良質米の生産に向けた支援などを推進する
- ▼飼料用米や高収益野菜への転換を促し、農家所得の向上に取り組み
- ▼振興作物の生産性向上と高品質化に向けた施策の推進や新規栽培や規模拡大を支援する
- ▼市内の産直施設と連携を密にし、地産地消の取り組みを推進する
- ▼八重咲リンドウの切花栽培の実証試験を継続し、栽培方法の確立を目指し、生産者の収益向上のため株持

商工観光分野

- ▼新型コロナウイルス感染症拡大の影響により激減した国内外の観光客の回復に努める
- ▼少人数による体験を重視した旅行の市場開拓のほか、教育旅行や団体旅行の誘客を推進する
- ▼文化・歴史・食材などの地元の魅力を踏まえた情報発信により、海外旅行代理店などとの連携を強め、アジア圏の旅行者の回復と、オーストラリアや



国内外に向けた積極的なPRにより集客を図る（4年5月29日、八幡平ドラゴンアイ）



畜産農家の労働力の省力化と育成の効率化を進める（4年8月18日、市繁殖育成センター）



リンドウ試作品種の実用化に向け引き続き取り組む（4年9月13日、試作品種の現地検討会）



子育て支援体制やサポートの充実を図る（4年6月14日、1歳児健診）





さまざまな活動が再開し、地域住民が交流を深める(4年10月22日、平舘ふれあいまつり)



4年度に更新した除雪車両。引き続き計画的に更新を行う(4年12月22日)



未来を担う子どもたちが、再生エネルギーを学ぶ(4年10月24日、松尾八幡平地熱発電所)



IT関連の起業を目指す人材を育成(4年9月3日、市起業家支援センター)

欧米の市場開拓を推進する

▼工業振興 設備投資と雇用の拡大に取り組み事業者を支援するほか、新規誘致のための立地促進に取り組む

▼起業志民プロジェクト 市内起業者と連携し、ICTを活用した医療や福祉など地域課題を解決する仕組みづくりや事業拡大に必要な人材育成に取り組む、成長産業を創出する

▼商業振興 市商工会と連携を図りながら、地元商店街の活性化や消費拡大を推進する

▼(仮称)大更駅前顔づくり施設 図書館や子育て支援施設、にぎわい創出などの機能を持つ複合施設としての整備を進める

▼大更駅前沿道の商店街整備 これまで行ってきた意見交換を基に、商業用地としての分譲に取り組む

3 心身ともに健康で、活力に満ちたまちづくり

健康づくり

▼第4次「市健康づくり21プラン」を策定し、健康づくりを推進する

▼生活習慣病予防事業 医療用ウェアの購入費助成を行い、がん罹^り患された人の治療と仕事や社会参加などへの両立を支援する

▼母子保健事業 産婦人科医・小児科医によるオンライン医療相談を導入し、子育てに係る不安解消や子どもの健康増進を図る

▼新型コロナウイルス感染症対策 引き続き、国・県と協調し取り組み

▼高齢者福祉 高齢者福祉計画を策定し、高齢者の福祉向上に取り組む

▼成年後見制度 盛岡北部成年後見ネットワーク会議において、継続して制度の利用促進に関する取り組みや関係機関との連携を推進する

▼生活保護 引き続き適切な保護を実施するとともに、受給者の就労支援や自立の促進に努める

▼市立病院 診療体制の充実を図り、変化する医療環境や求められる医療ニーズに迅速かつ柔軟に対応する

5 ふれあいを大切にする、人情あふれるまちづくり

コミュニティ

▼各地域振興協議会と協力しながら、地域が自治の力を取り戻すためのプラットホームとしてのコミュニティセンターを目指し、地域課題の解決や地域住民の交流の場としてのコミュニティセンターの運営を支援する

まちづくりの目標を支える社会基盤整備と行政経営方針

▼(仮称)スマートインターチェンジ 関係機関と連携を図りながら、事業

教育・文化・スポーツ

▼教育研究所 市内小中学校教職員の研究と修養の充実を図り、資質の向上に励むとともに、児童生徒の学力保障に向けて、先進的な実践研究に取り組む

▼生涯学習事業 生涯学習推進計画の策定から5年目となることから、計画の見直しを行う

▼芸術文化 (仮称)八幡平市文化芸術推進基本計画を策定し、関係団体と連携しながら一層の推進を図る

▼文化財 外国人観光客が市内の文化財に興味・関心を持てるよう、文化財説明版などの多言語化を進める

▼スポーツ活動の推進 市体育協会や関係団体との連携や支援を通じ、市民が広くスポーツに親しむ機会の創出に努める

4 自然をはぐくみ、景観にすぐれたまちづくり

環境衛生

▼第2次市環境基本計画に基づき、具体的な施策を実施し「2050年ゼロカーボンシティ」の実現を目指す

▼再生可能エネルギー発電設備の設

を推進する

▼都市計画 5年度の事業完了を目指し、大更駅前線沿道整備土地区画整理事業に取り組む

▼道路整備 市道鴨志田線や市道森合線などの整備を継続して進める

▼道路維持 随時、道路補修を行うとともに、法定点検の結果に基づいて橋りょう補修を実施する

▼除雪対策 除雪車両を更新し、各地区の実情に応じた除雪を行う

▼市営住宅 長寿命化計画に基づき良好な住環境を確保する

▼水道事業 安定した水道供給のため、県産業廃棄物最終処分場整備に伴う配水管布設工事や水道施設の更新を継続して進める

▼下水道事業 公共下水道事業の管渠整備を継続する

▼下水道施設 施設の更新に取り組む

▼農業集落排水施設 機能強化対策を継続して進める

▼防災 関係機関や地域防災の中心となる消防団との連携強化を図るとともに、学校や地域などにおける防災教育や防災講座、防災訓練などを通じて自主防災組織化を促し、地域防災力の向上に努める

▼岩手県総合防災訓練 岩手山の火山災害を想定し、岩手山周辺の3市



施設改修などにより、スポーツ環境の整備を進める(5年1月12日、改修した矢神飛躍台)



大型映像装置など、市内小中学校の授業でIT機器の活用が進む(4年6月9日、安代小)



3年ぶりに舞台・展示部門の両部門開催となった市芸術祭(4年10月22日、松尾コミセン)



水防訓練をする消防団員。本年度、県総合防災総合訓練を予定(4年9月4日、市防災訓練)

1町を会場として開催されることから、岩手県や関係市町と連携し、災害対応力の強化に取り組む

▼交通安全・防犯 高齢者や児童・生徒を重点に交通安全と防犯対策の啓発に取り組む

▼空き家対策 所有者などによる適正管理を原則として、空き家やその跡地の活用促進に取り組み、必要に応じて助言や指導などを行い空き家の解消に努める

▼情報通信の活用 市ウェブサイトの充実やソーシャルネットワークキングサービスの活用など、情報の発信に積極的に務める

▼広域での連携と交流 ハロウ安比校との間で締結した連携協定に基づき、地域振興や国際交流などの取り組みを推進する

5年度の前算は、次ページで紹介